

歴史散歩



はせ いせぎ どうひょう 初瀬街道と田尻・井関の道標

市一志庁舎から県道久居美杉線を西に向かうと、田尻公会所の脇に道標が立っています。この道標には「右さんぐう道」「左津久居ミち」「すぐはせ街道」「明治廿七年四月建之」と刻まれており、元は一志郵便局の筋向い、県道の一筋南を通る初瀬街道と津・久居に向かう道との分岐点にありました。

初瀬街道は奈良県桜井市初瀬から青山峠を越え、松阪市六軒へと至る街道です。この道標が立っていた三差路より西にあった田尻宿は、江戸時代に八太宿とともに久居藩の御用をはじめ、宿場から宿場へと荷物を運び継ぐ人足と馬を常備する交通と物流の要地でもありました。現在は宿場のにぎわいは影を潜めてしまいましたが、かつては数軒の旅籠があったそうです。

田尻宿を出ると街道は県道に合流し、大きく蛇行する波瀬川に沿って行くと、ほどなく矢頭峠を越えて美杉町多気に至る多気道(現在の県道一志美杉線)とに分かれます。以前はこの分岐点に文化3(1806)年と刻まれた常夜灯と慶応2(1866)年と刻まれた道標がありましたが、これらは現在、井関地区の住吉神社境内に移されています。

分岐点からさらに西に歩を進めると、街道は県道と分かれて谷戸峠へと坂道を上っていきます。峠には明治の頃まで茶店があり、沢ガニ焼などの露店が軒を並べていたそうです。

峠を下ると街道は再び県道に出て、大井宿へと向かいますが、明治27(1894)年に峠の岩盤を開削して県道が整備された後は利用も途絶え、今はその道をたどることができません。

時を経て、往時の街道とは様子が変わってはいますが、道標や常夜灯からかつての面影を感じることができるのではないのでしょうか。



井関地区の住吉神社に移された常夜灯と道標



田尻宿の道標

